



# 児童サービス担当者より 夏のオススメ本

ありがとう  
佐賀市立図書館 開館 20周年

## 『ぼくはきみできみはぼく』

ルース・クラウド／文  
モーリス・センダック／絵  
江國 香織／訳 偕成社 Eセ

子どもたちの気持ちを表した短い詩やおはなし、劇やせりふがつまった、詩集のような絵本。

ページをめくるごとに現れるたくさんの子どもたちが、純粹でユーモアにあふれる「愛」や「友情」についての想いを綴っていきます。

『かいじゅうたちのいるところ』でおなじみの絵本作家モーリス・センダックが描いたかわいらしいイラストがちりばめられていて、眺めているだけで楽しい気持ちになれますよ。



## 『母さんがこわれた夏』

マリャレーナ・レムケ／作  
松永 美穂／訳  
徳間書店 943レ

母さんが病気になったのは、わたしたちが四つ子で、手がかかるせいなの？

空想好きな父さんと優しい母さんをもつ、四つ子の一人、ソフィー。ソフィーが10歳の夏、初めて家族旅行に行くことになった。でも、その頃から母さんの様子が少しずつおかしくなり始めて・・・。

心を病んだ母と、それを見守る家族の姿を少女の視点で分かりやすく描いた作品です。



## 『生きものの持ちかた』

松橋 利光／著  
大和書房 480マ

この本では、身近な生き物やペットから、ちょっと危険な生き物まで、その道のプロたちが、持つ側も持たれる側も安全な持ち方を教えてくれます。

どんな生き物でも、痛みや不安を感じれば攻撃してきます。見た目はかわいらしいウサギも、鋭い前歯で噛みついてきたり。

どこを持てば生き物たちは痛くないのか、体のどの部位に毒があるのか。ポイントをおさえれば、サソリや蛇、猛禽類を持つこともできます。触りたくはないけれど、夏のあの、不快な害虫だって…。



## 『東京バンドワゴン』

小路 幸也／著  
集英社 シヨ

東京下町の古本店『東京バンドワゴン』。古本店らしからぬ名前のこの店で、ひとクセもふたクセもある「堀田家」の家族の面々と、訪れるお客様たちとの、ちょっと不思議で、最後にほっとする物語。

「LOVEだねえ」のひとつことが、今日もこんがらがった人の縁と心を解きほぐしていきます。

毎回物語の始めに描かれる、堀田家の朝食風景も読みどころ。家族っていいなと思える一冊です。



資料はすべてYAコーナーにあります。